

(様式第4号)

上田市美術館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市美術館協議会
2 日時	令和2年9月25日 午前10時00分から午後14時45分まで
3 会場	上田市立美術館市民アトリエ・ギャラリー
4 出席者	小林幸雄会長、佐藤聡史委員、武田敦子委員、土屋健治委員、伴美佐子委員、松本透委員、米津福一委員（五十音順）
5 市側出席者	峯村教育長、西田館長、荻原総合プロデューサー、柳原政策企画部長、清水館長、山寄館長補佐、小笠原館長補佐、岡田主査、青木主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年9月30日

協 議 事 項 等

1 開 会 (清水館長)
2 委嘱式 (峯村教育長から各委員へ人事通知書を交付)
3 あいさつ (峯村教育長)
4 委員・事務局自己紹介
5 会長及び職務代理者の選出 (会長：小林委員、職務代理者：米津委員)
6 交流文化芸術センター運営協議会との合同会議
7 施設見学
8 協議事項
(1) 美術館協議会について
・資料に沿い、清水館長から概要を説明
・質疑なし
(2) 美術館事業概要について
・資料に沿い、清水館長から概要を説明
・以降、協議
(委員) 資料に沿って実績を聞いていけばいいのか、課題を解決していくのか、方向性を知りたい。
(事務局) No.4の交流文化芸術センターの資料と美術館の実績を聞いていただき、状況をご理解いただきたい。
(委員) 9ページの組織イメージについて、交流文化芸術センターの館長と美術館の清水館長の位置を教えてもらいたい。
(事務局) 当初計画では、館長が交流文化芸術センター館長、ホール責任者が交流文化芸術センター副館長、美術館責任者は美術館館長という想定である。
(委員) 上田市立美術館実績報告書における27ページ中の美術館運営事業費（コレクション展を含む）について、コレクション展以外の事業を具体的に教えてもらいたい。
(事務局) コレクション展以外におとなのアトリエ講座、ミュージアムショップ運営委託費等の事業費が含まれており、各企画展と子どもアトリエ以外の合計金額になる。
(委員) 当初6人の職員で始めて、多岐にわたる事業の種類及び量を展開してきたのはすごいこと

だと思う。

公立美術館は、人が詰めかけなくても使命としてやるべき展覧会がある。一方で、収入が見込める展覧会を盛り込むべきという考えもあると思う。人気の展覧会は予算が通常の2〜3倍かかるが、収入も多い。複数館合同で展覧会を実施する場合は、各館の都合があるので、毎年はできない。こういう状況の中でこの展覧会の実績は、納得感のあるラインナップになっている。

(委員) 今日に至るまでこれだけの実績を積み上げてきたのはすごいことだと思う。当初計画で子ども育成事業や様々な事業を実施する前提で人員配置や予算を計画していると思うが、これだけの事業量に対し、当初の計画では予算を安く見積り過ぎていたのではないかと思う。

もし見直す必要があるのならば、企画展を1本減らし、事務量や予算を削減した方が質の高い仕事ができるのかもしれない。

(委員) 年々子どもアトリエの人气が上がってきている。しかし、子どもアトリエの存在を知らない教職員がいるので、上小美術教育研究会で周知していきたい。体験プログラムや教職員の研修等を毎年実施できたらと思う。

(委員) 新聞社の事業として、様々な事業に助成金を出してきたが、現在は採算性も加味して検討している。

市として経費の圧縮を優先するべきなのか、このまま事業を継続していくべきと考えているのかを伺いたい。

(事務局) 上田市交流・文化施設運営管理計画検討結果報告書で試算された交流文化芸術センターと美術館の合計の年間経費は、当初3億円であったが実績として5億円になっている要因の1つとして、当初に予算を算出するうえで、人件費の単価が安かったことが考えられる。事業費は、想定内の金額であると考えている。

交流文化芸術センター運営検証委員会では、事業費を税収200億円の5%程度をかける意見が出ている。これまでの育成事業を中心に継続していく中で、弾力的な事業運営が必要だと考えている。本協議会では、美術館の本来の在り方と事業内容を照らし合わせて、今後の事業のあり方についてご協議いただきたい。

(委員) 24ページの事業収支について、備品購入費に作品購入費が含まれているのは一般的なのか。

(事務局) 予算区分は、地方自治法施行規則で定められている。

(委員) 美術品購入費の金額を知りたい。寄贈作品も含めて、内訳を知りたい。

(事務局) 毎年80万円程度の予算はある。文化振興基金はあるが、基金から購入すると後に補填する必要があり、あまり使わない。

(委員) 平成30年度10日間のコレクション展開催後、20日後に展示替えをしており、これだけの人数で実施していることはすごいことだと思う。

山本鼎の手紙の展覧会を拝見して、石井鶴三の妹光子に大失恋した後、パリに渡航した際の父に宛てた手紙で、アメリカでビジネスを学ぶかパリに行くか迷いがあったが、今はパリに来てよかったという節を拝見し、美術館の運営においても同じ永遠のテーマではないかと思う。限られた予算の中で、運営方針を申し述べなければいけないと改めて思った。

(委員) 山本鼎や石井鶴三等の厚みのあるコレクションを所有していることは、美術館として恵まれており、さまざまなことに活用できる。コレクション展は、収入に結びつきにくいのは厳しいところである。

(3) その他について

(事務局) 第2回協議会を11月6日午後とし、第3回協議会を12月16日午前とする。